

くらしのスタジオ

<http://www.cinq-sd.co.jp>

梅雨の季節が到来しました。アジサイの花が雨にぬれて咲いている様子は、日本の情緒を感じさせてくれます。

サンクは事務所を1階の路面に移し、9月で満2年を迎えます。やっと、あたたためてきた計画を実現することになりました。”くらしのスタジオ”からの発信です。

その第一回目は、日本でも珍しい女性の木工職人の展示会と造作家具フェアです。是非、皆さまお誘いあわせの上、展示会をのぞいてみてください。

東日本の大震災から1年半近くが過ぎようとしています。

被災地及び関係者の皆様にとっては、復興には長い月日がかかることと思います。

こころよりお見舞い申し上げます。



2012
夏号(季刊)

創刊 Vol.4

特集

断捨利リフォーム。 家族でルールを作りたい。捨てるものと残すもの!

今、世の中は断捨利ブーム。暮らしを見直し、スリム生きることはカッコいい生き方のお手本です。でも実際にモノを整理する、実行するとなると、捨てる勇気は思いのほか大変。特に自分の愛着のあるものへの決断は、鈍く、捨てるモノを選択することは容易ではありません。そこでお勧めしたいのが、ライフステージに合わせて住まいをリフォームする機会を作って暮らしをダイエットする“進化するリフォーム”実行してみたいかですか。リフォームは断捨利するにはまたとないチャンス。取っておくもの、捨てるもの、判断基準は何ですか?

断捨利リフォームの時期

まずは結婚して10年目——10年の蓄積を見直すチャンス

平均的な家族にとって住宅事情が変化するのは、子どもが小学校に上がる頃。子どもたちの生活の中心はリビングから個室へと移行していく時期。子どもに学習机を与え、独立した子ども部屋、独立しなくても子ども専用スペースと子どもにまつわるリフォームをしたくなる時期。また結婚して10年の蓄積で、家族の生活スタイルが変化し不要なものもたまっている。この時期、捨てるもの、家族として残しておきたいものの家族ルールを作っておくと良いでしょう。

結婚して20年目——そろそろ老朽化が目立ってくる時期

家族の歴史ができてくると荷物も増え、子どもたちも成長してモノも増え、一番住まいが狭く感じるとき。住み続ける住まいにメンテナンスは必須。何も手を加えていないならこの時期、設備機器は交換時期に。今なら、節電、省エネ、地球環境に配慮した機器類を検討し、太陽光発電などエネルギーを売るなどの情報を駆使し、賢いリフォームを。このときにモノもスリムしておけば、後の整理がはかどります。

結婚して30~35年目——終いの住まいに 50代後半~60代にかけてのリフォーム

リフォームは時間とお金、エネルギーのいること。スリム生きるをモットーにこの時期に断捨利リフォームをした方がよい時期。夫婦2人の生活にもどるのもこの時期だから、これから先の生き方、暮らし方。そんなことを考えて住まいの減築化計画を。

暮らしを充実、進化するリフォーム

生活スタイルにあわせて3回のリフォームを実行したHさんの場合

家族スタイルにあわせて住まいをリフォームして進化させ、快適な暮らしを実現しているHさん。

実質主義のHさんの住まい。でもそうみえないのは、絵画や照明器具、家具、カーテンスタイルで華やかな雰囲気を演出しているから。住まいは心地よく生きるためのベースです。

1回目



LD入口に情報ステーション、棚の扉はピンナップボード

結婚してから5年目

あたためていたプランの実現

小さい子どもを抱えながらフルタイムで仕事をこなしていた時期

リフォームの内容

物は極力持たない主義だからこそ、効率の良い暮らしを目指して収納は過剰適所に。LD入口横に家族の情報ステーションを作り必要なモノ(新聞、郵便、子供のプリントFAX、PC)を集約。妻のWICを新設(鏡の前で全身コーディネート)の出来るスペース。アイテムの把握、朝の時間節約

2回目



クローゼットの左半分はデスクコーナー

その2年後

小学校入学を機に子供部屋改装

自分の持ち物の管理と寝室のスペースを確立

リフォームの内容

床材を肌ざわりの良いコルク貼りに。限られた空間を最大限有効に使用したいので学習机は置かず、クローゼットの中半分の空間に造作棚でデスクコーナーを新設。宿題や勉強はお母さんとコミュニケーションのとれるリビングが基本。

3回目



120cmの断捨利キッチン

2回目から6年後

断捨利と設備メンテナンス

キッチンセットをミニマムに、210cmから120cmの究極のキッチンへ交換。

リフォームの内容

何度も検証した結果、キッチンに1人で立つならこのワイドで十分との結論。新しく作った家族のワーキングスペースの子供に目が届き、TVも正面に壁掛けしたのでキッチンからも楽しめる。1回目にリフォームしたWIC内も、パーツ交換や棚の高さを調整で、更に収納力をバージョンアップ。

住まいの哲学

今回は住宅関連の本も出されているJさんにセミプロの立場で住まいの哲学をお願いしました。

私たちもこだわり続けている間取りへの一家言。リビングキッチンを提唱していた私たち。

今回のこの間取りの価値観のお話は考えさせられました。

第四回 「きちんと暮らす

ための間取り」

今

春、娘が結婚した。新居を探す2人に、一応先輩としてアドバイスをしよう、と意気込んで私は尋ねた。「何を一番重視しているの？」。家賃、利便性、広さ、安全性、といった答えが返ってくると思ったら、彼が一言「間取りです」。え、そこ？

2人が望む間取りは、2DKでリビングと寝室が別であること、またキッチンがリビングから独立していること、の2点である。共働きで超多忙だからこそ、毎日家でごはんをつくって、しっかり休養をとりたい。だからその間取りが重要、という。ところが、最近の若い人たちが向けの賃貸アパートは「ベッドも置ける広いリビング」に「対面式カウンターで隔てられたキッチン」が

あるワンルームの物件ばかりで見つけるのに苦労したようだ。

最終的に、築20数年全面改装済みのマンションに希望通りの部屋が見つかった。とくに独立したキッチンが2畳近くあり、収納も充実していて使い勝手がいいらしい。2人とも料理大好き、食べるのが好きなので、あちこちからレシピを集めてきては2人でいろいろとつくっている、という。「結婚するって、生活を楽しむことなんだよね」と幸せそうな娘を見ると、私まで嬉しい。

34年前結婚した私たち夫婦の新居も、同じく2DKのアパートだった。キッチン、風呂、トイレがすべて押し込まれた7畳の自称「リビング」と、ふすまで隔てられる6畳と4畳半の2間がある2DK。記憶が薄れてきたとはいえ、娘たちの新居と比べると同じ2DKでも雲泥の差で、不自由なことが多々あった。更衣室がないから衣類を食卓に置いて風呂に入り、洗面所もないからキッチンの戸棚に手鏡をぶら下げて化粧をした。「結婚するって、生活の苦勞を味わうことなんだ」と当時の私は思っていた。

34年前の私たち夫婦には、きちんと生活するために住まいの間取りを考える、という発想はなかった。簡素ながらすっきりと快適な部屋で暮らす娘たち夫婦を見ていて、日本人の住まいに対する考え方はこうも変わったのか、と感慨深い。

サンクの くらしのアドバイス



タイルを貼って個性豊かなリフォーム

木造住宅のリフォームで間取りを変えようとする、どうしても構造上外せない柱が出てきます。そこで、右の写真は、その柱を活かして、個性豊かなインテリアを演出しています。柱を丸型に囲い、その上に曲線に貼れる小さなモザイクタイルを張っています。まるでキラキラ光るキャンディの様で、色も白をベースに好きな配色と配分で、まさに世界で二つだけの「オンリーワン」仕上りに。仕上材に自分の好みと個性を十二分に活かし反映出来るのがリフォームの醍醐味とも言えます。モザイクタイルと言えば古くはヨーロッパなどの壁画や建築にも使われていますが、身近な住宅でも積極的に取り入れたい仕上材です。タイルにも最近は大々さんの表情を持つ物があがり、日本的な笹などをモチーフのもの、中近東をイメージさせるアラベスク模様、手描きのスペイン風などタイルひとつで「タイルワールド」が広がります。お勧めのモザイクタイルのショールームが代々木にあります。タイルに関心のある方は一度のぞいてみてください。

<http://www.nagoya-mosaic.co.jp/>

素敵な 4回 生き方

木工職人
みずかみ ゆき
水上 由貴さん

力仕事が多く危険を伴う家具製作は、男ばかりの世界。その中で全国的にも珍しい女性木工職人、水上さんを紹介します。

子 子どものころから絵画や工作が大好きで、自分でイメージしたもの自分の手で形になることが楽しくて仕方がない、という水上さん。大学卒業後に就職した大手キッチンメーカーで、特注品の図面を描き、制作する木工職人の仕事に触れるうちに、自分で作ってみたいと思うようになりました。

い、メーカーを退社後は本格的に修行。中国に語学留学した際、骨董家具の店舗や工場を回り、中国家具の伝統的デザインなどを学びました。帰国後、埼玉県三郷市に「ゆき工房」を立ち上げ、今年6月に8年目を迎えました。

会社員時代の得意先や、上司や先輩の紹介、飛び込みなどで営業先を広げています。「自ら様々な場所に出向き、多くの人に私という個人を知ってもらいたい人脈を広げることが何よりも大切」と言います。

「安全で使いやすく、スペースに無駄のない女性ならではの視点とアイデア」を信条に、曲線を生かした収納や福祉施設のカウンター、車の荷室棚など独自の設計家具を手がけています。テレビのリモコンや新聞、箱ティッシュなど、卓上に散らかるものをすべて片付けることのできる、引出しや収納棚のついた食卓は、大変好評を得ています。

37種類103個の木を組み



「おとぎの国の積木ちゃん」



「ゆき工房」にて椅子制作中の水上さん

合わせて、かに、チューリップ、ロケットなどが自由自在に作れる「おとぎの国の積木ちゃん」も注目されています。

引出し付きの食卓や「積木ちゃん」のほか、バズルや木製おひなさま、額縁などをサンクの展示会にて展示しています。

展示会のお知らせ

引越してからあたためていた企画を今年2つ実現します。場所は「くらしのスタジオ」です。

女性の木工職人とのコラボ

通信の素敵な生き方に登場していただいた水上由貴さんの作品展示です。

展示期間 平成24年7月20日(金)〜7月29日(日)まで

期間は日曜日も開設しております

時間は午前10時〜午後7時まで

作品展示 ゆき工房 オリジナルな積み木、オーダー家具等

ご注文いただいておりますお引き渡しまで2〜3週間かかるものもあります。

取りに来ていただくか、郵送にてお送りさせていただきます。



親子ギャラリーに。

父の絵と娘のジュエリーの夢のコラボをくらしのスタジオで実現

私の師である故岡本敦先生の絵画とその娘である新進気鋭のアートジュエリー作家である岡本菜穂さんの作品を同時に展示

現在、菜穂さんはS-I-R-I-S-I-R-Iを主宰。建築素材を生かし、職人さんの技をプラスしたオリジナルなジュエリー手掛けるデザイナー。女性雑誌などにも取り上げられてファンが急増。新宿伊勢丹その他のデパートでも展示会をしている作品です。

展示期間 平成24年9月末日予定



皆様からの感想、投稿もお持ちしています！

生活デザイン設計室 株式会社 サンク 一級建築士事務所

CINQはフランス語で“5”という意味。

1984年に女性5人で設立した建築設計、インテリアデザイン事務所です。

“間取りの住みこち”をテーマに、個人住宅の設計や新築マンションの企画、住戸の設計、インテリアコーディネート等を数多く手がけ、間取りを帰るマンションのリフォームが得意分野。2010年「くらしのスタジオ」オープン。

書籍：「間取りの読み方・描き方」「住みやすさが続くマンションの間取り」(ともに実業出版社) 他

<http://www.cinq-sd.co.jp>

【仕事内容】

- 建替へのトータルな相談
- 戸建て、マンションのリフォーム
- インテリアコーディネート
- グリーンコーディネート



お問い合わせはフリーダイヤルで

0120-72-5039